

# 奥羽大学報



## 目次

年頭所感 .....	2
公的研究費の管理・監査体制整備／歯学部OSCEトライアル .....	4
薬学部OSCEミニトライアル .....	5
(歯)2008年度共用試験特別実施／(歯)第4回模擬患者養成研修会 .....	6
(歯)CBTシステムの構築／(歯)第13回教員研修講演会 .....	7
(歯)第20回歯科医学教育者ワークショップ	
博士(歯学)の学位授与式／(歯)学生の出席状況 .....	8
大学見学(湖南高等学校)／オープンキャンパス .....	9
在籍学生数一覧	
学生会活動記録／歯科医師臨床研修マッチング結果 .....	10
附属病院 .....	11
国際学会 .....	12
私が薦める一冊の本／余滴 .....	13
同窓会／同窓生のひろば .....	14
人事／慶弔 .....	15
郡山自転車ロマン紀行(第5回) .....	16
行事予定 .....	18
平成19年度後期定期試験日程(歯・薬) .....	別刷

# 117

## 年頭所感



学 長  
清水 秋 雄

明けましておめでとうございます。

穏やかな新年をお迎えのことと存じます。

医療系学部では、問題解決型教育がかなり浸透してきました。今や文系社会系の学部においても、成書にはないような社会で遭遇する諸問題をいかに解決するか、そのための副専攻制度を設け、学部を問わず専攻可能な学際的問題解決型教育が盛んになってきました。それには文部科学省も新しい教育に現代GP (Good Practice) として助成しています。大学でも社会のニーズに対応し、地域研究の学部や研究センターを設置する傾向があります。

わが国における新教育のルーツは、戦前の初等教育において導入され、ある程度実施されましたが、戦時に後退し戦後の教育改革によって再び導入されました。今で言う生活単元学習や総合的な学習です。しかし、その導入が余りにも急だったため十分な実施に至らず定着しませんでした。

当時の問題発見解決型の考え方は、1950年文部省発刊の『初等教育の原理』に記載されています。当時、小学高学年時に問題解決学習を経験した豪州ラトロープ大学杉本良夫教授は以下のように記しています。生徒に日常生活で疑問、不思議だと考えたことを提出させ、そこから問題（例えば、雨はなぜ降るだろう）を選んで授業を構成します。生徒は理由、雨量計算、降水量の地域比較、雨関連の熟語探しなど幅広い領域について図書館で調べ、時には実験し学習・解決します。その記憶が、後の思考様式の支えに役立っていますと。

教育に実学的側面の必要性が問われ、その具体化は進行中ですが、それには形式だけではなく担当者自身の変革・熱意が前提です。



歯学部長  
天 野 義 和

新年おめでとうございます。

今年は子年、干支で言うと子は一番目のスタートラインに立つ動物です。奥羽大学歯学部も今年第一歩から新たに出発する気分で皆さんと歯学部が更に良い方向へ向かうように頑張りたいと思います。

今年度は共用試験のOSCE, CBTが教職員の皆さんの努力が報われて本学で実施されることになりました。

教育においては以下の6つの柱を目標にしたいと思っています。①授業の充実：従来の1コマ90分（2時間）を60分（1時間）の授業とし、学生の集中力を高める。②学力向上：繰り返し学習（フィードバックを含む）としての総合学習の新設。③コア・カリキュラム改訂内容の包含：生涯学習に向けての準備、科学的研究への参加。④参加型臨床実習の更なる強化。⑤ICT教育の取り入れ。⑥教育基本法への対応：人格形成です。また、建学の精神「人間性豊かな歯科医師を育てる」には、授業だけでは十分でないのでカリキュラム時間外に音楽や知的伝統芸能の鑑賞によって情操や情緒および感性を身につけさせたいと願っています。平成20年度からの新しい科目は総合演習、パソコンによるICT教育の他に歯科医療管理学、デントシムによる歯冠修復の統合科目、文章表現です。外部に対しては高等学校への派遣授業も企画中です。このように歯学部は前向きに前向きにと現在のニーズに答えるために努力をしていますが、実行するには教職員と同窓会の方々の協力なしでは実行し得ません。どうか実現に向けて御協力頂きますようお願い致します。

今年も皆様、良い年になるようお祈りします。



薬学部長  
永井 正博

明けましておめでとうございます。  
皆様、良いお年をお迎えのことと思います。  
薬学部では、今年4月に完成年度を迎えます。  
4月に4年生となる諸君の卒論、求職活動、  
病院・薬局実務実習、薬剤師国家試験受験準備等、  
本薬学部の将来を占う年になります。  
特に国家試験の結果は、長く本薬学部の実績  
として残るものであり、受験する学生諸君の  
奮起を期待します。教員もそのための援助を  
惜しみません。がんばりましょう!!

この4月に3年生になる諸君およびその下の  
学生諸君は、六年制薬学教育を受けるわけ  
ですが、六年制教育に対する準備も現在着々と  
進行中です。本年2月にはCBTトライアル、3  
月にはOSCEトライアルが実施されます。また、  
病院・薬局実務実習の受け入れ施設の確保も、  
本学が東北地区病院・薬局実務実習調整機構に  
積極的に協力して、着実に進みつつあります。  
また、今年は、学生諸君を受け入れる施設の  
指導薬剤師の養成も進むことでしょう。県  
薬剤師会、県病院薬剤師会の薬剤師の方々も、  
また大学も、多大な労力を費やして六年制薬  
学教育への準備に当たっていることを皆さんも  
知って欲しいと思います。六年制薬学教育は  
本学部の3年生になる諸君が第1回生である  
ことの自覚を持って、下級生の良い手本にな  
ってください。

薬学部は今年、完成年度を迎えます。教員  
は一丸となって努力します。学生諸君もこの  
点をよく認識し、研鑽してくれるよう期待し、  
あわせて大学当局並びに歯学部諸先輩方のご  
協力とご指導をお願いいたします。



附属病院長  
清野 和夫

謹んで初春のお慶びを申し上げます。

附属病院では建学の精神である「高度な知識  
と技術を備えた人間性豊かな人材の育成」を  
モットーに、患者さん中心の安全で安心な医  
療の提供、地域社会の健康増進と福祉向上へ  
の貢献、高度な先進歯科医療の実践を基本  
方針とし、福島県における歯科医療の中核  
病院として地域医療に取り組んでいます。

昨年は、臨床教育の中心となる外来診療室  
の改修が行われ、総合歯科第一、第二診療室  
と矯正・小児歯科診療室が装いを新たにしま  
した。特に、矯正歯科と小児歯科が合同で診  
療できる状況は、幼児から成人に至るまでを  
一連の過程として教育できることから、教育  
効果の高い環境が整えられたこととなります。  
また、薬学部のコア・カリキュラムに則った  
病院実習を本院で実施するため、薬局の改修  
と医事課、庶務課の一部改修を現在行ってい  
るところです。

さて、附属病院は監督官庁である福島県、  
郡山市保健所、東北厚生局および国立大学附  
属病院関連の視察を定期的に受けていますが、  
大学当局と病院職員の弛まぬ努力のお蔭で、  
改善を求められた事項はほとんどなく、きち  
んとした運営がなされています。今年も様々  
な視察が予定されていますので、厳格ななか  
にも患者さんから好感の得られる病院運営に  
努めたいと考えています。

今年は、情報伝達システムを充実して病院  
機能の向上をはかるとともに、高度な歯科医  
療を通じた社会への貢献と、臨床教育の充実  
をはかり、地域の中核病院としての役割を果  
たす所存です。皆様のご理解とご協力を賜り  
ますようお願い申し上げます、年頭の挨拶と  
いたします。



図書館長  
安藤 勝

明けましておめでとうございます。

皆様、よい新年をお迎えのことと思います。

大学図書館を取り巻く環境は、近年、大きく変化しております。その一つに「学術機関情報リポジトリ」の動きがあります。これは、各大学が生産した学術情報を各大学が電子化し、インターネット上で情報発信しているという、高度発信型電子図書館を志向するものです。

収集・蓄積する資源には、研究成果報告書、学位論文、紀要、単行書、単行書の章、シラバスなどがあります。現在、規模の大きい国立大学系の図書館がそのシステムの運用を先行しております。やがて中小規模の大学図書館にも波及するでしょう。我々は今からその準備をする必要があります。

さて、本学図書館は文学部が幕を閉じて、いよいよ歯学系の図書館として再出発しました。文学部の研究室から返還された図書の移動処理も一段落しました。図書貸出管理用の各図書へのバーコード添付作業も順調に進行して、貸出管理が容易になりました。難問は外国雑誌高騰です。毎年15パーセント以上は確実に値上げされています。限られた予算枠ですから、結局は購読雑誌数の減少につながり、研究活動を阻害する要因になってしまいます。実に頭の痛い問題です。

大学図書館と地域住民との連携ということで、昨年は「大学図書館探検」（学報116号参照）を企画しましたが、日常的なレベルでの図書館の公開についても検討する必要があります。

皆様方のご協力をお願い申しあげ、新年のごあいさつといたします。

## 公的研究費の管理・監査体制整備

平成19年2月19日付け文部科学省科学技術・学術政策局長より「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」等の通知があり、各研究機関における研究費の不正な使用に対する体制整備が求められた。

本学では、ガイドラインに基づき各規程、組織、監査システム、研究費使用ルール等の点検・整備を行い、去る12月に実施状況報告書として文部科学省に提出したところである。現在まで、全ての科学研究費について監査を行っているが適正な使用がなされている。今後更に、学内各研究者に対して研究費の使用ルールを周知徹底し、不正使用防止計画を推進実施のうえ、その適正な運営・管理に努めていきたい。

(設楽 民雄)

## 歯学部OSCEトライアル

平成19年12月23日(日)に歯学部OSCEトライアルが附属病院を試験会場に実施された。これには歯学部教職員156名、模擬患者（SP）18名の総計174名が参加した。

今回のOSCEトライアルは、歯学部4年生を対象として平成20年3月に本学会場にて実施が予定されている共用試験歯学系OSCEの特別実施に向けて、特に教員を中心としたスタッフの運営面での諸課題（試験環境の設定、OSCEタイマー・音響の設定、受験生誘導と試験結果の回収・パソコン入力等）の確認と検証を図ることを主眼として全学の教職員の協力の下に実施された。

このOSCEトライアルには、医療系大学間共用試験実施評価機構から歯学系OSCEのFD委員の先生方（委員長 俣木志朗 東京医科歯科大学大学院教授、葛西一貴 日本大学松戸歯学部教授、関本恒夫 日本歯科大学新潟生命歯学部教授、古谷野 潔 九州大学大学院教授、大川周治 明海大学歯学部教授、川上智史 北海道医療大学歯学部教授、奈良陽一郎 日本歯科大学生命歯学部教授、中嶋正博

大阪歯科大学准教授、北原和樹 日本歯科大学生命歯学部講師、大山 篤 東京医科歯科大学助教の10名)が本学のために全国から駆けつけて下さった。FD委員の先生方は前日のテストランから参加され、当日は各ステーションや誘導・回収等についてきめ細かく視察され、午前・午後の試験の間には検証作業の時間も設けて、問題点の抽出やより一層の改善を図るための種々の指摘や提案をして頂いた。

試験は臨床研修歯科医師が受験生となり、6課題を3系列のストレート方式の試験方法(本学では初めての実施)で進行し、教員が評価者となって無事予定通り終了した。終了後の全体会では各FD委員の先生の概評があり、最後に俣木先生より、「今回のトライアルは3月の試験実施に向けて、運営面での大変良い練習の機会となったとともに教員のFD(資質向上)に極めて有意義であった」とのうれしい講評を頂いた。改めて各先生方には心から感謝申し上げる次第である。

今回のOSCEトライアルは多くの収穫があったが、この経験を生かして3月の歯学部4年生のOSCE試験にむけて教職員が一致協力し、全学を挙げて取り組んでいくことが望まれる。

(鈴木 康生)

OSCE : Objective Structured Clinical Examination  
「客観的臨床能力試験」



## 薬学部OSCEミニトライアル

平成20年3月23日(日)の奥羽大学薬学部OSCEトライアルに向けて、流れをつかむことを目的として、平成19年11月29日(木)、12月20日(木)の両日にわたりOSCEミニトライアルを実施した。加えて教員全員が評価者を体験することを目的とした。今回のミニトライアル課題は、薬剤交付と薬剤鑑査の2課題で、各6レーンで実施し、薬剤交付には模擬患者として登録された事務職員および協立医療関係者が参加した。

### 11月29日(木)実施

13時に永井正博薬学部長の挨拶に続き、「本日OSCEミニトライアルは13時30分より開始します」のアナウンスにより開始された。OSCEミニトライアルの前半参加学生は114名であった。今回かかわった職員は、薬剤交付の責任者として高田芳伸教授、薬剤鑑査の責任者として多田 均准教授、評価者30名、現状復帰係10名、誘導係4名、その他全体を評価する係3名の総勢49名であった。ミニトライアルは15時40分に大きなトラブルもなくすべて終了した。終了後、薬学部OSCE準備委員会を開き今回のトライアルを検証した結果、トライアル会場の各レーンの学生の声が隣に聞こえることおよび学生の集合場所と終了時の待機場所が同じであることにより終了した学生から内容が漏れる恐れがあるという問題が浮かび上がった。

### 12月20日(木)実施

前回同様の2課題、6レーンで実施した。OSCEミニトライアルの後半参加学生は前回トライアルを経験していない114名である。今回外部の評価者としてクオール薬局の2名に参加いただき、計32名になった。前回の問題点を改善すべく学生が2階の集合場所からトライアル会場、終了後は1階の待機所に移動するという動線を検証した。すなわち集合場所と終了時の学生の待機所を別にし、更にトライアル会場のお互いの声が聞こえないよ

うにとより広い実習室を使用した。

2回のOSCEミニトライアルで学生の動線および評価の方法を検証したが、今年3月23日(日)の奥羽大学薬学部OSCEトライアルにむけて確かな手応えが感じられた。

(東海林 徹)

### (歯) 2008年度共用試験特別実施

平成19年度の本学第4学年を対象とした2008年度共用試験特別実施に関する通知が、医療系大学間共用試験実施評価機構(共試機構総発第800号:平成19年12月3日付)から届いた。

共用試験歯学系CBTは平成20年2月24日(日)に、共用試験歯学系OSCEは平成20年3月9日(日)に実施することが決定した。昨年度の特別実施は、日本歯科大学生命歯学部を試験会場として実施されたが、今年度は奥羽大学歯学部が試験会場となる。

本学で実施する共用試験は初めてで、学生にとって不利益にならないような試験環境を設営し、運営することが重要であり、その運営如何によって機構への加入が左右されることになるであろう。したがって、歯学部全体が一丸となって取り組んで行く必要があると言える。

(鎌田 政善)

### (歯) 第4回模擬患者養成研修会

去る12月7日(金)午後6時30分～午後7時50分まで、講義棟を会場としてOSCE特別実施のための第4回模擬患者養成研修会が開催された。天野義和歯学部長の挨拶に始まり、模擬患者養成小委員会のメンバーである金 秀樹准教授による症例の解説、さらには模擬患者養成連絡会のメンバーを中心とする学内スタッフ十数名が模擬受験生となりロールプレイによるトレーニングを実施した。

これまでの数回にわたる研修会を通じて模擬患者さんの知識やスキルは向上しており、ロールプレイ時や全体での反省会における質問も、より詳細かつ高度な内容となっているのが印象的であった。

本研修会とは別に、3月に予定されているOSCE特別実施に向けた準備のため模擬患者との打ち合わせが組まれており、さらなる実力向上とOSCE特別実施での素晴らしいパフォーマンスが期待される。

(山森 徹雄)



### (歯) CBTシステムの構築

平成20年度医療系大学間共用試験特別実施は奥羽大学で実施されることになり、CBTは平成20年2月24日(日)に、またOSCEは平成20年3月9日(日)に予定されている。

奥羽大学では5号館CALL教室に60台、情報処理室に60台のコンピュータが設置されているが、これを用いてCBT特別実施に対応出来るようにCBTシステムを構築した。また2つの教室間には双方向の音響・映像設備を設置し、同時に講義や連絡が可能となり、学年全員のコピー用コンピュータを用いた試験・講義にも対応出来るようになった。

(鈴木 陽典)

CBT : Computer Based Testing

「コンピュータを用いた客観試験」

### (歯) 第13回教員研修講演会

平成19年11月16日(金)午後5時半から午後7時まで、第2講義棟第1講義室で、東邦薬品(株)経営企画本部人材開発室室長 安達 博氏をお迎えして、「心の架け橋あなたの接遇マナー」と題するテーマで教員研修講演会が開催された。歯学部教職員、臨床研修歯科医師、薬学部教職員130名が出席した。

日本の社会では日常いたるところでマナーの重要性が問われている。何故日本人はそこまでマナーに敏感なのか、それは人それぞれに「心の在り方」に大きな関心をいただいているからであるとの解説があった。また、相手を大切に思う気持ちは、相手本位の文化が基盤となっている。裏を返せば、自分も相手か



ら大切に思われたいという気持ちの現われであり、「思い遣り」、「配慮」、「察し」の文化であると安達氏は講演で述べられた。最後に会場から患者さんへの呼称や学生に対する配慮などの質問があった。

(浜田 節男)

### (歯) 第20回歯科医学教育者ワークショップ

平成19年11月17日(土)午前9時から午後4時半まで、5号館2階で前日の教員研修講演会に引き続き東邦薬品(株)安達 博氏をお迎えして、「患者さんクレームによる対応」と題するテーマで歯科医学教育者ワークショップが開催された。患者さんクレームの対応や接遇については、過去に附属病院が主催して学外講師を招いて数回講演会を開催してきた。

今回は、登院生、臨床研修歯科医師及び指導医の直面する状況設定で「患者さん接遇—患者さんからのクレームに対する対応—」をメインテーマに具体的なクレームをKJ法により分析して、対応策を検討した。ワークショップ参加者には教養系・基礎系・臨床系教員合わせて22名の出席があった。

安達氏より「心地良い接遇クレーム対応」についての講演後、各グループに分かれて、クレームの原因の抽出、解決・対応の見直しなどのグループ討議が行われた。全体討議では参加者から活発な質疑応答があった。ワークショップの感想としては、どのグループもクレームが起こらないための対応策はきちんと話し合っていたが、クレームが起こってしまったからの対応策についての話し合いが十分でなかった。治療をする側としてはどうし



でもアクシデントやヒヤリ・ハットが起こらないようにすることに視点が集中してしまうが、これからは損害賠償が請求されることも視野に入れて細かな対応策を考えていかなければ行けない、などがあった。

また、元アナウンサーで本学非常勤講師の吉田いくよさんから口のあけ方や発声法についてボイストレーニングを受けた。有意義なワークショップであった。

(浜田 節男)



### 博士(歯学)の学位授与式

平成19年度11月期の学位授与式が、11月28日(水)歯学部第3会議室にて举行された。当日は生体構造学講座の田中三千三郎専攻生(第252号)と生体材料学講座の野口博志助手(第253号)の2名が栄えある博士(歯学)の学位を授与され、清水秋雄学長よりお祝いの言葉と励ましの挨拶があった。

(鈴木 康生)



### (歯)学生の出席状況

平成19年度から歯学部では、各学年における学力の向上を図るために、講義・実習の出席状況の改善を行っている。学生は講義や実習を欠席した場合には、科目欠席届に理由を明示し、クラス担任に提出することが義務付けられ、5学年、6学年の欠席者には、毎朝、クラス担任、学年主任が電話による確認を行っている。

出欠調査は毎月教務課で集計・公表し、欠席の多い学生はクラス担任、学年主任の指導を受けるほか、学生部長、学部長、学長による指導も受けている。特に欠席の目立つ学生の保護者には手紙による通知も行っている。なお、欠席回数が多い科目では、科目担当者による補講を行い欠席者の学力低下への対策としている。

欠席率は、昨年度と比較して下表に示すとおり減少が見られるほか、出席を厳しくしたせいか、授業態度も改善傾向にある。また、出席率の改善をすべく科目担当者には授業内容にも配慮していただいている。

出席状況の改善により共用試験および今後ますます厳しくなることが予想されている歯科医師国家試験に対応すべく、全学的な学力向上につながることを期待している。

(鈴木 陽典)

授業欠席率(前期)

	平成18年度	平成19年度
1学年	7.31%	3.37%
2学年	9.64%	7.36%
3学年	4.16%	3.18%
4学年	5.56%	1.89%
合計	6.67%	4.20%



大学見学（湖南高等学校）

11月22日(木)、福島県立湖南高等学校1・2年生の生徒15名が、前林先生の引率のもと、大学見学を訪れた。

はじめに、第3講義棟で歯学部浜田節男教授による大学の沿革、施設紹介、教育方針についての説明が行われた。場所を移動して、薬学部 東海林 徹教授の説明で1号館の模擬薬局、模擬病棟、薬草園を見学、メモリーでの学食体験に引き続き、図書館、附属病院診療室の見学を行った。

強風のうえ、小雪が舞い散る中わずかな時間だったが、大学の雰囲気を感じ取れたのではないだろうか。進路決定にぜひ役立ててほしい。

(渡邊 克己)



オープンキャンパス

12月9日(日)にオープンキャンパスを開催した。学部別に、天野義和歯学部長、永井正博薬学部長が、それぞれの学部の「特色と教育方針」を紹介した。つづいて歯学部は鈴木陽典学生部長が、薬学部は野島浩史学生部長が、「一般選抜入試：昨年度の結果及び今年度の傾向と対策」について説明した。その後は従来通り、キャンパス見学、実習体験、学食体験、そして個別進学相談が行われた。

(榎原 直文)



在籍学生数一覧

平成20年1月1日(火)現在の在籍学生数は、以下の通りです。

学年	歯学部			薬学部						合計	
	男	女	小計	4年制			6年制				薬学計
				男	女	小計	男	女	小計		
1年	77	21	98	0	0	0	57	37	94	94	192
2年	93	24	117	3	4	7	102	93	195	202	319
3年	75	16	91	80	149	229				229	320
4年	68	26	94								94
5年	74	24	98								98
6年	83	20	103								103
計	470	131	601	83	153	236	159	130	289	525	1,126

## 学友会活動記録

### ○アーチェリー部

三春町長杯インドアアーチェリー大会

平成19年12月2日(日)

三春町民体育館

成年女子

優勝 薬学部1年 飯塚 有紀

成年男子

3位 歯学部5年 柴原 栄一郎



### 第40回全日本歯科学学生総合体育大会

第40回全日本歯科学学生総合体育大会ラグビーフットボール部門が奥羽大学主管により、年末12月23日(日)から28日(金)の6日間、日本大学工学部グラウンドを会場として行われました。第40回という節目を迎え、参加校の減少から15人制に加え、7人制の導入を試みました。15人制では日本大学松戸歯学部、7人制では日本歯科大学が優勝しました。我々奥羽大学ラグビー部は7人制に出場し、1回戦を勝利し、迎えた決勝では日本歯科大学に19-0と健闘むなしく惜敗し、準優勝でした。来年はもう



一つ上を目指すべく一層練習に努力し、皆様のご期待に添い得ますよう精進いたす所存です。

最後に、今大会を開催、運営するにあたり、福島県・郡山市ラグビーフットボール協会、郡山市・郡山市教育委員会、大学関係者の方々、その他多大なご協力をいただいた皆様に感謝を申し上げます。今後とも相変わらぬご支援のほど切にお願いいたします。

(ラグビー部主将 ミツ山 晃弘)

## 歯科医師臨床研修マッチング結果

平成20年度の歯科医師臨床研修選考試験は、第1回目が平成19年8月25日(土)に第2回目が9月15日(土)に実施され、受験者は本学の6年生100名、既卒者48名と他大学の卒業生および卒業予定者が26名であった。

選考試験は、第1回目・第2回目ともに13時30分から中央棟2階図書館閲覧室において、病院長より委嘱された研修プログラム責任者を含む選考委員が、2人一組で1人の受験者に対し6分間の面接をおこなった。

その結果、本学の6年生が73名、既卒者が20名そして他大学から4名が平成20年度の本学附属病院における臨床研修歯科医師としてマッチした。本学の6年生は、他の研修機関にマッチした26名とあわせ99名がマッチし、マッチング率は98.0%であった。

(大野 敬)

## 附属病院

### 歯科大学附属病院間で医療安全相互チェック実施

厚生労働省が国立大学病院に対して義務づけている医療安全相互チェックに、私立大学も参加可能となり、2年前本学は広島大学、大阪大学と相互チェックを行い、多くの収穫を得た。本年度は九州歯科大学、新潟大学と相互チェックを行うことになった。

まず、平成19年11月13日(火)、本学と新潟大学が九州歯科大学附属病院の視察に向向した。良い点として、1) 手術室、診療室などに十分な空間が確保され、プライバシーの保護、動線、緊急時のストレッチャー搬入などで非常に優れている、2) AEDが十分配備されAHA（アメリカ心臓協会）の心肺蘇生コースも開催予定である、などをあげた。一方、1) 職員の医療安全研修会の参加率が少なく、研修会の講師も院内に限られた少数に集中しているため、外部講師招聘などの検討が必要、2) クリニカルパス作成後の使用率が少ない、3) インシデントとその対応策などのフィードバックが不十分、などについて改善を求めた。

次に、平成19年11月15日(木)に本学と九州歯科大学が新潟大学歯学部附属病院の視察に向向した。良い点として、1) インシデント報告が月に20～30件と多く、医療安全への意識が高い、2) 医療安全研修会も年に4回以上開催され、出席率も高い、3) DVDやニュースなどを経由して種々のフィードバックを行っている、などをあげた。一方、1) 場所が狭く、ユニット間にはストレッチャーが通れない場所も多々見受けられ、プライバシー保護遮蔽もない、などについて改善を求めた。

最後に、平成19年11月26日(月)に、新潟大学と九州歯科大学が本学を視察した。本学附属病院は、1) 安全に関するマニュアルや各種研修会が十分整っている、2) 病院を清潔に大切に運用している、などのお褒めの言葉を頂いた。一方で、1) インシデント報告数が少ない、2) 院内でのスリッパ履きは感染と転

倒リスクを上げる、3) AED配備が少ない、4) 歯科麻酔科外来全身麻酔スペースが狭く危険、などの指摘も受けた。

今回の相互チェックによっても、他大学附属病院の裏まで見ることができたことは大きな収穫となった。全体の感想として、国公立大学は背後の基盤がある反面、附属病院合併や事務職員の頻回の異動などによる運用面の問題も多く見受けられ、本学は恵まれた環境にあることを改めて実感した。

(山崎 信也)



本学附属病院の視察

### 附属病院における院内BLS-AED講習会の実施

BLS（1次心肺蘇生）やAED使用による救命例は、一般の人にも多く報告されており、我々医療従事者が「知らない」は許されない状況である。附属病院では、2005年にAED（自動除細動器：心臓のけいれんによる心停止を電気ショックで回復させる器具）を設置し、附属病院全職員を対象としたBLS-AED講習会を行った。また、BLSは臨床研修でも必須化されており、引き続き本年も、病院職員や臨床研修歯科医師を対象としたBLS-AED講習会を行った。

講習会は11月27日(火)～12月12日(水)までの平日17：30～18：30で、1回の受講者6～8名に対しインストラクター2名とし、病院棟5階東側エレベーターホール前で合計10回実施した。インストラクターは学会認定の心肺蘇生コースを修了した当病院の歯科医師7名、看護師1名、歯科衛生士2名で、職員と臨床研修歯科医師の約80名を対象とし、2班に分かれて

BLSとAED使用方法について講義と実習を楽しく行った。

歯学部附属病院においても、すでに大阪大学と昭和大学でAEDによる救命例が報告されており、本学附属病院での使用の可能性も考慮すべきであり、今後もこのような講習会を開催し、病院の安全、医療の安全に貢献したいと思う。

(山崎 信也)



## 国際学会

### 第43回欧州糖尿病学会年次学術集会 43<sup>rd</sup> Annual Meeting of the European Association for the study of Diabetes (EASD)

平成19年9月17日(月)から21日(金)にオランダ・アムステルダム市で開催された第43回欧州糖尿病学会年次学術集会に参加し発表を行った。欧州糖尿病学会は、米国糖尿病学会とともに世界の双璧をなす糖尿病研究の最先端の学会で、口演発表は200題余あったが、その中に採択されたことはまことに光栄だったと思う。演題名は“Accelerated nephropathy in type 2 diabetic patients with type III hyperlipoproteinemia (apo E2/2 genotype), and the detrimental effects of their remnant lipoproteins on human mesangial cells”である。和訳すると、「III型高脂血症を有する2型糖尿病患者における糖尿病性腎症の促進と、そのレムナントリポ蛋白のヒト腎メサンギウム細胞に対する悪影響」となる。近年、糖尿

病の増加とともに、その合併症である腎症、最終的には人工透析にいたるケースが増加し、医学上大きな問題となっている。その糖尿病性腎症の進展防止のためにこれまで高血糖と高血圧の管理が重要視されてきたが、今回我々は、高脂血症とくに高中性脂肪血症で増加するレムナントリポ蛋白が増悪因子であることを初めて見出した。この知見はフィブラート薬、イコサペント酸エチル(EPA)、第2世代スタチンなどの薬物介入によって、糖尿病に頻発する高中性脂肪血症を改善することが腎症阻止につながる可能性を示唆するものである。セッション「糖尿病性腎症の機序」の中で20分程の口演発表をしたが、その間の半分は熱心な討論となった。もう少し英語力があればと痛感したが、糖尿病性腎症における高脂血症の意義に関しては十分理解されたと確信している。

日本人にとってオランダは風車とチューリップというイメージであるが、先進工業国でもあり、シーボルトに代表されるように日本の医学とも深い関連がある。オランダの人々は外国人に対して分け隔てなく、やさしいという印象をうけた。学会の合間にフェルメールやゴッホの絵画を鑑賞することもできた。また、アンネ・フランクの家を訪ね、平和の尊さをしみじみと感じた。

なお、本研究は平成19年度科学研究費(課題番号19590155)の助成をうけたことを申し添える。

(衛藤 雅昭)



---

**私が薦める一冊の本**

---

「上杉鷹山」

(童門冬二著 集英社)

あまり読書が好きではなかった私に大変な読書家の父親が薦めてくれた本を紹介する。

歴史小説や歴史の書物に触れている方はご存知と思うが、上杉鷹山は九州の小藩の生まれにもかかわらず17歳で名門上杉家の養子に入り、その後第9代米沢藩主となる。その米沢藩の財政は壊滅的な状況で藩籍返上の瀬戸際にあり、鷹山は藩政の改革に乗り出す。その藩政改革は無駄な出費を削減することばかりではなく殖産興業によって新たな財源を確保する一方で、民間の活力を高めるなど多方面にわたっている。また、藩の将来のために学校の設置や教育の充実も図った。この改革を行うには多くの苦難を伴ったが、鷹山にあっては民主的な思想を基盤に、時代の大局を見据える洞察力と信念を貫き通す実行力や忍耐力の大きさがその成功へと導いたことが伺える。さらに、鷹山は他人へのいたわり、思いやりの気持ちが強く、藩政の改革は藩民のものにほかならぬと改革を推進して行った。率先垂範、先憂後楽の鷹山の日頃の行動は多くの藩士、領民の心を打ちその信頼を勝ち得ていった。

故ケネディ米大統領が「ウエスギ・ヨーザンは私の最も尊敬する日本人」と言ったと伝えられていることから上杉鷹山はスケールの大きい人物である。本書は高い理想に燃え、優れた実践能力と人を思いやる心で、家臣や領民の信頼を得ていった上杉鷹山の生涯を描いたものである。

温故知新という言葉があるが、過去の人物の存在感や優れた業績を紐解き知ることこそそれにあたるものと考え。すぐれたリーダーシップにふれたい方には是非お勧めしたい1冊である。

(勝山 壮)

---

**余 滴**

---

本年度より歯学部において、1年生から6年生までの一貫した科目として「歯科医療人間学」が始まった。年度の途中からお手伝いさせていただいているが、大変面白い科目で密かに毎週楽しみにしている。とくに、「態度教育」のユニットには大変感心させられる。内容は「礼儀とは」「挨拶とは」といったことについて考える授業と、実際にビデオカメラで挨拶や自己紹介を撮影して、その画像を見ながらフィードバックすることである。

言語表現はコミュニケーションの中で数パーセントしか占めておらず、非言語表現が非常に大事なことであるといわれている。マニュアル化された対応だけでは相手の理解を得ることは困難であろうと思う。自分で考え、表現していく日々の練習は「その人らしさ」の形成にもつながる有意義な時間となると感じている。

「形成的評価」つまりは試験として、小論文をおこなった際に、学生が知恵を絞って文章を書いている姿を見ていたが、今度は自分が「余滴」の原稿に悩まされることになるとうちはそのときは思いもしなかった。学生にとっては将来、どんな原稿依頼があったときにも「歯科医療人間学」での経験が活かってくるのだらうと思う。

今までの机に座っての勉強とは一味違い、実習とも一線を画するこの科目の意義を学生が理解するのはなかなか難しいかと思うが、教員、学生ともども「人間性豊かな歯科医師を育成し、地域の歯科医療の発展と向上に貢献する」という奥羽大学の教育理念にあわせた成長をしていけるようにがんばらなければならない。

(宇佐美 晶信)

## 同窓会

## 歯学部

群馬県支部会長を務めております2期生の加藤です。今回3度目の投稿をさせていただきます。

同窓の皆様におかれましては、お元気で活躍のことと思います。前会長の小島道夫先生より私が引継ぎ8年目に入りました。この間、支障なく活動できたのも会員の協力体制がすでにできており、ただそれを踏襲しているからです。

支部の現況は、会員数42名であります。群馬県の歯科医師会の会員数が930名ですから5%にとどきません。しかし、開業年数20年以上の先生も多く、郡市区、県歯で役員として活躍されており、人数の割りに目立っております。活動状況は、6月に総会と学術講演会、秋に学術講演会と懇親会を開催しております。年1回の郡市区での懇親会もあります。対外的には、県内の校友会への参加等があります。学術講演では、2年ごとに歯科補綴学講座教授の鎌田政善先生に奥様の地元ということで無理な講演の依頼を聞いてもらっています。また、会員の先生による講演もあります。昨年は6月30日(月)に山森徹雄准教授に講演をしていただき、インプラントに対する考え方が変わりました。2月には、太田のスタディーグループで高田 訓教授の講演も予定されています。同窓の講師が来県した場合、会員が集まる体制になっています。また群馬県歯科医師会の広報誌の11月号に、7期の橋本隆宏先生に苦勞して大学紹介の原稿を作ってもらい、県内に分かりやすく紹介していただきました。

来年は、同窓会の30周年になりますが自分も卒後29年とは、実感がわかりません。何かといやな世の中になっています。忌憚のない話ができるのは、同窓会員だからでしょう。これからも何でも相談できる楽しい会にしたいと思います。群馬に戻られる先生は、ご連絡ください。

(群馬県支部長 加藤 孝一)

## 同窓生のひろば



佐藤 寿徳

(歯学部7期生)

明けましておめでとうございます！

県支部の皆様をはじめ、同窓会の皆様のますますの御発展と御健勝を御祈り申し上げます。

さて、私とは言えば、本当に月日の経つのは早いもので卒業して25年、50歳も目前に迫っている次第であります！鏡に映った我身には溜め息ばかり。年頭に於いての志は早やくじけ、はやばやと反省の日々をすごしております。

昨年は、友を失い、妻の手術に立ち合い、たくさんの心境の変化を感じざるを得ない状況の中で今さらながら、「生きている事」「働ける事」の有り難さを痛感致しました。傍らに咲いている花にも鳥のさえずりにも気づかなかった自分が雪山の白黒の濃淡におどろき、頬をかすめる冬の空気の違いに気づく程。友は、私にたくさんの事を教えてくれました。日々の仕事にも足元の小さな事に気づく事、その中に昨今の厳しい社会情勢の中での答えがあるかもしれないと思うのであります。これから、残り50年(生きるつもりです)いかに謙虚になれるか戦いながら生きて行こうと、新たな年頭の志に酔いしれている次第であります。

まだまだこのままでは、終れない。仕事に遊びに一花咲かせたい。そう思うのは私だけでしょうか。



伊藤 辰典  
(日文科10期生)

同窓生の皆様、お久しぶりです。私が文学部を卒業して早や5年、現在は日本郵便郡山支店第二集配課社員として日々バイクで走り回っております。

私が郵便事業会社に入って一番思うことは、現在の郵便物の種類の変化です。毎朝郵便物を道順に並べていると、そのほとんどが企業からのDMです。郵便物の9割を占めているといっても過言ではないほどで、個人間での郵便のやりとりは少なくなっています。お恥ずかしい話ですが、私自身もここ数年、年賀状や暑中見舞い以外では手紙を書いていません。手紙が書かれなくなった大きな要因は、携帯電話の普及だと思います。私も電話やメールは毎日使っています。言いたいことや伝えたいことを瞬時に相手に送れるというのは大変素晴らしいことだと思います。

しかし、あるお客様と話していた時、その方がポツリとこんな話をしてくれました。「この前、郵便屋さんが配達してくださった郵便のなかに、東京で一人暮らしをしている息子からの手紙が入っていたのよ。毎日仕事が大変だけど頑張っていますって書いてあったの。その字を見て、本当に元気で頑張っているんだって安心したわ。」この話を聞いた時、私も手紙の味わいがわかったような気がしました。書かれた文字から健康状態や現在の状況がわかる、これはメールでは絶対に伝わらない、手紙の醍醐味の一つだと思います。

現在親御さんと離れて暮らしている方は、一度自分の文字で手紙を書いてご両親に送ってみてはいかがでしょうか。きっと喜ばれると思いますよ。日本ほど多種多様な文字を使う国はありません。その国で生まれた「文(手紙)」の素晴らしさを多くの人にもっと知っていただき、どんどん書いていただければ本

当に幸せだと思います。

人事

〈退職〉

深澤 行雄	事務局長	12月31日付
鈴木 留美	助手 薬学部	〃
朝妻 春美	歯科衛生士 看護部	〃
三坂 清美	事務職員 学事部 (歯学部担当)	〃

〈任用〉

渡部 剛史	助手 歯学部 放射線診断学	1月7日付
-------	------------------	-------

〈兼務〉

萩原 覚	参事(財務部長)兼 事務局長代行	1月7日付
------	---------------------	-------

慶弔

〈結婚〉

おめでとうございます。  
○齋藤 哲朗 歯学部 助手 12月10日

〈訃報〉

謹んでお悔やみ申し上げます。  
●歯学部 中村 真治  
実父 中村美喜夫 殿 (60歳) 12月8日  
●薬学部 八巻 史子  
祖母 相蘇ハルヨ 殿 (87歳) 12月26日  
●歯学部 氷室 利彦  
実父 氷室 利達 殿 (82歳) 1月6日

## 郡山自転車ロマン紀行 (連載)

## 〈第5回〉

## 白鳥の歌が聞こえる

正月初出勤の朝、大空を飛んで行く白鳥の群れを見た。クーツ、クーツという鳴声を互いに交しながら、十数羽が一丸となって飛んでいる。悠然と白い羽をなびかせているその姿には、息を呑むような優美さがある。懐かしい日本の原風景をみる思いだ。

郡山周辺には、白鳥の来る場所が数カ所ある。阿武隈川と鎌倉池はよく知られている。遠くシベリアの方から飛んでくるのだろう。遺伝子のなせる業とはいえ、自然世界のすごさを感じさせる。命の燃えるような営みがあるのだろう。

新聞各紙によると、猪苗代湖への第一陣は10月14日(日)にコハクチョウ27羽、本宮市高木の阿武隈川には10月17日(水)に8羽、福島市内の鎌田大橋付近には10月17日(水)に7羽の飛来を報じている。ピークは2月上旬、日ごとに数を増し、猪苗代湖では3千5百羽ほどになるという。

10月下旬、秋が深まりゆくころの休日、富久山町北小泉堂坂の阿武隈川へ自転車を走らせた。今までこの川での白鳥を見たことがない。今年こそ見ておこう。

藤田川が阿武隈川に合流するところに、富久山清掃センターがある。その横から阿武隈川に沿ってサイクリングロードが延びている。



阿武隈川の白鳥

春・夏には川辺の繁みでウグイスが鳴いているところだ。今は秋。冬の使者たちはやって来ているだろうか。期待がふくらむ。

しばらく走ると、はるか前方の田の中で、白く動くかたまりを発見する。ある1画の中だけの白い動きだ。日常的な光景ではない。

近づくと、無数の白鳥の群れが、稲穂の落ちこぼれにあずかっている。ざっと数えて180羽。カメラを向けながら近づくと、こぞって逃げていく。追いかける。逃げていく。田んぼの中での運動会といった感じだ。とうとうアップの写真は撮れなかった。

川や湖で泳ぐはずの白鳥が、田の中で遊んでいるというのも、変な光景だ。念のため、小和滝の橋を渡って、堂坂観音堂の白鳥の定住地？まで行ってみたが、川には1羽も泳いでいなかった。

それから1ヵ月ほどたった11月のある日曜日。再び阿武隈川へ行った。川で泳ぐ白鳥をどうしても見ておきたかったのだ。例の田の中に白鳥はいなかった。川へ移動しているに違いない。はたして、葦間の向こうから風にのった白鳥の鳴声が聞こえてくる。

堂坂の川辺は、優雅に泳ぐ白鳥たちの舞台となっていた。車でやってきた親子が、食べ物を受け与えている。幼児のはしゃぐ声が自然の風景の中にとけこんでいる。実にいい光景だ。そこだけが別世界となっていて、人間と白鳥が同じ目線で存在していた。永遠の美しさ



三穂田町大谷のサイホン式水路



を楽しむ絵画的な風景がそこにはあった。  
とうとう念願であった阿武隈川の白鳥を見ることができた。誰かに知らせてあげたい気持だ。

数日後、今度は大槻町の鎌倉池へ行ってみた。西部体育館の南側にある池だ。こちらの白鳥は毎年見に来るので、ほんのご挨拶？といった軽い気持ちでの見物だ。いつも300羽くらいは飛来している。ところが、今年は池に水がない。工事のためだろうか。無論、白鳥は1羽もない。見物にきた人が残念そうに帰って行く。

ここまで来たので、鎌倉池から数百メートル先にある清水池公園そばの水田へも行ってみた。清水池は郡山市の水道発祥の泉であり、少年自然の家や浄土松公園の入口である。ここの無農薬栽培の田にも白鳥は飛来する。あまり知られていないようだ。約80羽が田の水の中で羽を休めていた。

帰りに、三穂田町大谷にあるサイホン式水路を見物した。田んぼの中の異様な建造物だ。高い台地に水を送る水管で、そばの記念碑には、全長800メートル、昭和35年7月に竣工したと記されてある。安積台地のシンボルのように、晩秋の夕陽の中にその長い影を落としていた。

(図書館長 安藤 勝)



## 行事予定

平成20年

1月 January	2月 February	3月 March
6(日) 冬季休業終了 (歯1~5年・薬)	4(月)・5(火) 薬CBTトライアル	2(日) 歯一般二期入学試験
7(月) 後期授業再開 (歯1~5年・薬)	6(水) 薬一般一期入学試験	3(月) 薬一般二期入学試験
7(月)~24(木) 薬推薦三期入学試験 出願期間	7(木) 歯一般一期入学試験	歯一般二期入学試験 合格者発表
7(月)~2/1(金) 薬一般一期入学試験 出願期間	8(金) 歯薬一般一期入学 試験合格者発表	4(火) 薬一般二期入学試験 合格者発表
7(月)~2/5(火) 歯一般一期入学試験 出願期間	9(土)・10(日) 歯科医師国家試験	6(木) 歯記念植樹式、卒 業式リハーサル
15(火)・16(水) 歯卒業追・再試験 (6年)	14(木)~22(金) 歯後期追・再試験 (1~4年)	9(日) 歯共用試験特別実施 (OSCE)
21(月) 歯卒業予定者発表 (6年)	15(金)~26(火) 薬再試験	10(月) 歯卒業証書・学位記 授与式
24(木)~2/2(土) 薬後期定期試験	15(金)~29(金) 歯一般二期入学試験 出願期間	13(木) 薬進級予定者発表
24(木)~2/4(月) 歯後期定期試験 (1~4年)	18(月)~28(木) 薬一般二期入学試験 出願期間	14(金) 歯進級予定者発表 (1~5年)
26(土) 薬推薦三期入学試験	23(土) 大学院「期」入学試験	23(日) 薬OSCEトライアル
28(月) 薬推薦三期入学試験 合格者発表	24(日) 歯共用試験特別実施 (CBT)	24(月) 歯臨床実習再開 (5年)
		27(木) 歯科医師国家試験 合格発表

## &lt;委員会からのお知らせ&gt;

本学報は、同窓生と在学生の保護者あてに送付しております。転居・住居表示の変更の場合は下記までご連絡くださるようお願いいたします。その際、お手数でも宛名シールの番号をご記入いただければ幸いです。なお、皆様からのご意見・ご感想をお寄せ下さい。

連絡先/奥羽大学 総務部 広報担当

奥羽大学報117号(通算No.242)平成20年1月10日発行

発行 奥羽大学  
学報編集委員会  
委員長 清水秋雄

〒963-8611 福島県郡山市富田町字三角堂31番1  
電話 024(932)8931(代) FAX 024(933)7372  
ホームページアドレス <http://www.ohu-u.ac.jp>  
メールアドレス [info@ohu-u.ac.jp](mailto:info@ohu-u.ac.jp)